

ニカラグア国別評価の概要

1. 評価結果

(1) 「政策の妥当性」に関する評価

対ニカラグア国別援助計画と日本のODA政策、ニカラグアの国家開発計画、及び国際的な優先課題との整合性は概ね高い。他ドナーとの政策的棲み分けについては、公式の援助協調の機会を通じて効果的に行われている。

(2) 「結果の有効性」に関する評価

対ニカラグア国別援助計画の重点分野（「農業・農村開発」、「保健・医療」、「教育」、「道路・交通インフラ整備」、「民主化支援」、「防災」）における日本の援助は、総じて効果的に実施されたと言える。特に、「農業・農村開発」、「保健・医療」、「教育」、「運輸・交通インフラ整備」については、実績、資金的貢献度、マクロ・地域指標の改善状況から総合的に判断して、有効性の高い支援が実施されてきたと考えられる。また、「民主化支援」、「防災」についても、対人地雷対策支援、ハリケーン災害発生後の迅速な緊急支援等を通じて、効果的な援助を行っている。

(3) 「プロセスの適切性」に関する評価

国別援助計画の策定プロセスについては特に問題はなかった。また、国別援助計画実施プロセスについても、日本側関係機関の実施体制、案件形成・採択手順、モニタリング・評価等の観点から判断して、適切に実施されてきたと言える。他方で、ODAに従事する職員の量的・経験的充実が課題であり、少ないスタッフでより有効な援助を行うべく、機能強化を行う必要があると考えられる。

2. 提言

(1) 新しいニーズへの対応

近年、ニカラグアにおいては、従来の国別援助計画の重点分野に挙げられていない新しいニーズ（エネルギー・環境問題、治安問題等）が現れており、日本として今後、これらの分野に支援する余地を残しておくべきである。

(2) 援助実施体制強化

援助協調の進むニカラグアにおいて、利用可能なあらゆる手段を講じて、国内外の情報収集、スタッフの経験充実を図り、少ない陣容で有効な援助を行う必要がある。

(3) ODA タスクフォースの創意を活かす：ニカラグアでの経験より

ニカラグアにおける草の根・人間の安全保障無償の実施方法に見られるような、独自の工夫を推進することで、ODA タスクフォース全体の活性化をはかることができる、という教訓が得られた。

(4) プレゼンスを維持するためにも援助協調を：まずは情報収集・提供から

今後日本の援助総額が減少する可能性を念頭に置くのであれば、特に非アフリカ低所得国においては、日本の存在感を維持するために、より積極的に援助協調の輪の中に入り、情報収集や情報提供を進める必要がある。